MERCEDES PHILIA

走り系チューニングに国産VIPに、と日本には世界に誇れるカスタム文化がある。そうした中で育ってAMGへと行き着いたユニークなカスタムカーをご紹介しよう。それは既存のユーロ系とはひと味違う、独創的なカスタムカーに仕上がっている。

走りを支える究極フォージド

OWNER >> KATSUHIKO TSUCHIYA（土屋克彦サン）　CALL >> APPLAUSE（アプローズ）TEL.03-3330-2355 applause-audio.com
PHOTO >> RYOTA SATO（佐藤亮太/サッカス）　TEXT >> DAICHI NAKAMIGAWA（中三川大地）

AMG流ホットハッチを生かし切る、絶妙なモディファイ

サラっと手を加えただけのクリーンな表情を持つA45 AMGだが、秘めたる闘志は熱い。オーナーの土屋サンは根っからの走り好きで、かつては国産車をカリカリにイジって、ワインディングだサーキットだと走り回っていた。輸入車へ乗り換えてもその情熱はまったくもって薄れず。AMGの描いた辛口ホットハッチへと行き着いたというわけだ。

だからこそカスタムも走り優先である。360psもの出力性能を持つだけに、ひとまずフットワーク性能を詰めにかかった。まず選んだアイテムはBCレーシングの車高調であるBRコイルオーバーキット。車高調整に加えて30段階に区切られた減衰力を、今、詰めているところだ。走りをスポイルするローダウンはせず、踏み切れる仕様を目指す。

そこに組み合わせたホイールがおもしろい。土屋サンのコンセプトなら熱血系の国産鍛造ホイールにいきそうだが、選んだのはアメリカン鍛造ホイールの最高峰であるアナーキーだった。世界のスーパースポーツ、ハイエンドカーに装着するイメージのあるアナーキーをA45に投入する意外性がある。飽くなき走りの追求と、スタイルアップを両立させようと投入したのはAN17の19インチだった。5本スポークは確かにレーシーだし、アナーキーらしいストーンフィニッシュもダークグレーのボディにはよく似合っている。組み合わせたハンコック製スポーツタイヤ（Ventus V12 evo2）の感触も良好で、先に触れた減衰力設定とともにタイヤの効率的な使い方をあれこれ模索している。

キラキラと飾り立てるのではなく、あくまでスポーツドライビングを引き立てるチューニングパーツとしてアナーキーを選ぶ。モンスター級のスーパースポーツに対応してきたウルトラハイエンドなブランドなだけに心強い。今後は吸排気やECUなどのチューニングでさらにポテンシャルを高めていきたいと土屋サンは話す。その成長を支えるキーアイテムがアナーキーである。確かにこのコーディネイトなら、ホイールがブレーキダストやタイヤカスまみれになってもカッコいいと思える。アナーキーの新しい世界を体現しているようだった。

国産車をカスタムして走り回っていた土屋サンにとって初めての欧州車。足がキマれば今後は吸排気やECUなども手をつけたいという。

BCレーシングのBRコイルオーバーキットで車高を落とし、アナーキーAN17の19インチを装着。AMG純正が18インチだから1インチアップだが、走行性能とヴィジュアルの両立にはベストアンサーだ。スポーティーな5本のツインスポークを持つAN17は、A45AMGの世界観と調和する。独特の質感を持つストーンフィニッシュも特徴。タイヤは前後とも225/35R19のハンコック「Ventus V12 evo2」を装着する。

Mercedes - AMG A454MATIC 2015

WHEEL ANRKY>>AN17 F:19×8.5 R:19×8.5 Finish:STONE
TIRE HANKOOK>>Ventus V12 evo2 K120 F:225/35R19 R:225/35R19 **SUSPENSION** BC RACING>>BR COILOVER KIT

MERCEDES BENZ W205 C200

eS4 プロデューサーT.kの

今からメルセデス Vol.02

コーディングでグレードアップじゃ〜

いや〜、前回はドノーマルのクルマですみませんでした。この号から、いよいよ本格的にユーロモディファイのスタートです。で、まずは基本となるコーディングから！　本格ユーロからオーディオ、ライトチューンまでなんでもござれのプロショップ「アプローズ」さんで、施工してきたよん〜。

PHOTO>>AKIO HIRANO（平野 陽）TEXT>>eS4（編集部）

今回の担当ビルダー：
アプローズ 斉藤綾之介 代表

コーディングで使い勝手を改善する

「今からメルセデス」の２回目です。B8のアウディA4からW205メルセデスCクラスに乗り換えたワケですが、メルセデスの質感にただただ、関心するばかり。乗り心地もすごくいいし、ベース車自体には何の不満もないし、むしろCクラスにして良かったと思っているくらいです。ただし、モディファイのベースとなると、まだまだこれからというところでしょうかね。アフターパーツの供給事情とか、モディファイの手法で突出した仕様が少なく、研究の余地ありというところ。今後、そのあたりのまだ見ぬ領域に踏み込みたい……かなぁというのが今の心境です。

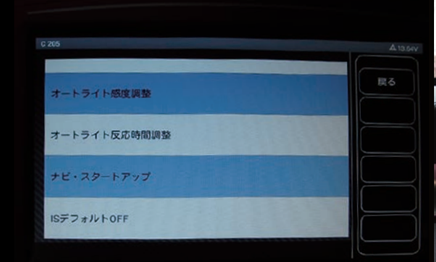
さて、今回は最もベーシックなコーディングを施工しました。最近のクルマは、走行中に操作できない（10年前でも基本的には走行中の運転以外の操作には規制はありましたけどね）ことが多くて、T.kにとっては不便極まりない。また技術に進化によって、安全面での配慮がハンパない。実はこれも、オッサン世代のT.kにとっては、うざいだけ。自動車メーカーさんにとっては、申し訳ないが小難しいことがない乗り慣れた10年くらい前のような設定にすることにした。

で、行ってきたのは、本誌でもおなじみの若手社長が奮闘して、新しい感覚のユーロを製作するアプローズ。ここでコーディングを施工。アプローズでは、スナップオンのMTG5000というモジュールを使って、ちょちょいと設定を変更していく。あっという間のことで、ちょっと拍子抜け。アフターの世界も進化しているということなのですね。と、いうことで、T.kにとっては快適な仕様になった。詳しい内容は右ページで解説しているので、参考にしてください。

アプローズではモディファイの作業をする場合、細心の注意をはらって慎重に行っている。①コーディングの作業をする場合は、外部電源を用意して、不具合のないように行う。②養生シートをしっかり張って、お客様の大切なおクルマを傷付けないように配慮している。③OBD端子にコネクターインしたら、作業がすぐさま始まる。

TVアクティブ

新しい車種では走行中にTVを見ることができなくなっているのは、ご存じのとおり。以前はディーラーで変更してもらえたものだが、最近はそれも御法度。でも、コーディングメニューにある「TVアクティブ」をオンにすれば、走行中でもTVの映像を映し出すことが可能に。ウチの娘のTVが観たいという要望を、やっと叶えることができたというわけです。

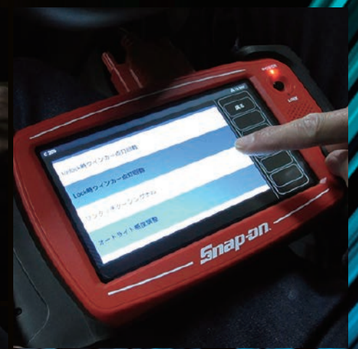


ナビ・スタートアップ

純正ナビ（輸入車の場合は、ほとんどがそうだと思いますが、社外製品を装着しているオーナーの方もいるので、あえてここでは純正ナビと呼びます）の場合、イグニションオンで画面が立ち上がり、車種のブランドが表示される。メルセデスの場合、「メルセデス・ベンツ」、「AMG」、「マイバッハ」の3種類が用意されている。ホントはこの表示を消したかったんだけど、どーも消えないらしいので、オレ様仕様の「マイバッハ」に決定！

デイライト有効化

これはもはや定番のデイライトの有効化。日本国内では法規的な問題もあって標準仕様では設定されていないが、ヨーロッパでは使用している機能。ポジションの時に点灯するライト部分が常時点灯となる。ちょっとしたドレスアップとして、今でも人気が高いもの。



その他にも多数の設定変更が可能なのだ!

スナップオンのMTG500の場合、W205メルセデスCクラスのコード書き換えが可能なプログラムは、主なところで13種類。ライト関係は、デイライト化のほかにもウインカーの点灯回数や、アンロック・ロック時のウインカー点灯回数、オートライトの点灯時間なども調整可能だ。そして警告音関係では、シートベルトとリバース時のうざい音もサイレントにできる。またエアコンの内気と外気の切り替えが、エンジンオフで外気に戻ってしまうことから、内気固定にできるプログラムなどもあり、自分好みの快適仕様にできるのだ。

新感覚のユーロモディファイ実現する注目ショップ

今回、コーディングの施工を行ったのは、今注目の30歳代の若手社長が切り盛りする新感覚ユーロショップであるアプローズ。基本的な足回りのセッティングから、ホイールインストールとボディカスタマイズやカスタムオーディオまで、クルマをカッコよくてより快適にする手腕に定評がある。定番だではなく、新しいパーツの提案をするユーロ最前線のプロショップだ。

APPLAUSE（アプローズ）
〒166-0002東京都杉並区高円寺北4-43-1　TEL:03-3330-2355　https://applause-audio.com
営業時間:11〜20時　定休日:毎週火曜日、第3水曜日、イベント参加日